

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473300398
法人名	株式会社コスモス
事業所名	コスモス長津田
訪問調査日	2018年10月23日
評価確定日	2018年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300398	事業の開始年月日	平成14年7月1日	
		指定年月日	平成26年7月1日更新	
法人名	株式会社コスモス			
事業所名	コスモス長津田			
所在地	(226-0018) 横浜市緑区長津田みなみ台1-6-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方の生活のペースを尊重して、ご自身で出来ることはしていただき、出来ないことを職員が補う形で介護していく方針をもって、お互いが楽しく家庭的な雰囲気の中で暮らせるように配慮しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年10月23日	評価機関 評価決定日	平成30年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の経営は株式会社コスモスです。同法人は平成14年7月に「コスモス長津田」を開設し、その後もグループホーム1ヶ所と高齢者専用賃貸住宅、デイサービスを開設しました。そして今年、デイサービスは閉止し、デイサービスの建物をそのまま活用して、新たにコレクティブカフェ「楓シンフォニー」をオープンしました。新たにオープンした「楓シンフォニー」は飲食だけでなく、マッサージ機、カラオケ、リハビリ器具等が設置されている他、研修や教室を行うレンタルスペースもあり、地域のコミュニティスペースとしての役割をになっています。ここ「コスモス長津田」はJR横浜線と東急田園都市線が交わる「長津田駅」から徒歩10分の、都市区画整備が施された環境の良い場所にあります。事業所は駅から国道246号線をまたぐ広い道路に面しており、事業所の敷地から離れた場所は一段低くなっていて見晴らしも風通しも良い住宅地に囲まれています。

●理念に「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」を掲げ、玄関の目につく場所に掲示しています。職員へは理念を唱和するのではなく、日々のケアの中で、理念3項目を意識して対応することで自ずと共有できるようにしています。職員は、利用者が自ら進んで行うことを「危ない」と言って制止するのではなく、「ありがとうございます」と言って寄り添い手伝えることで、残存機能の維持につなげるケアを心がけています。

●地域との交流については、運営推進会議や地域の方から情報をいただき、町内会の夏祭りやどんど焼き、防災訓練等の行事に参加している他、事業所の行事に地域の方にも声をかけ、参加していただき交流を深めています。また、運営推進会議時に、事業所で起こりえる事故や事象について取り上げ、地域包括支援センターや民生委員の方にサービスの実際を理解していただくように努めています。また、地域福祉に貢献するため、地域の他の事業所と共に見守りネットワークに参加しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	コスモス長津田
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを素に地元の行事に参加し、職員を始め利用者もその理念を共有し参加、実践している	理念に「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」の3項目を掲げ、玄関の目につく場所に掲示しています職員へは理念を唱和するのではなく、日々のケアの中で、理念3項目を意識して対応することで自ずと共有できるようにしています。職員は、利用者が自ら進んで行うことを「危ない」と言って制止するのではなく、「ありがとう」と言って寄り添い手伝うことで、残存機能の維持につなげるケアを心がけています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお祭りに積極的に参加している。そのほか自治体の行う消防訓練などにも積極的に参加させていただいている	町内会の夏祭りやどんど焼き、防災訓練などの行事に参加しています。事業所の行事の際には、地域の方にも参加いただき、交流を深めています。また、地域の事業者で構成する見守りネットワークにも加入しています。中学生の学習体験も受け入れています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に地域の掃除にも参加させていただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には長津田地域ケアプラザの方や民生委員の方などの助言により、いろいろな意見を聞き、ケアにつなげている	包括支援センター、民生委員、利用者・家族の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。事業所の活動状況報告をした後に話し合いをしています。議題では、事業所で起こりえる事故や事象について取り上げたり、身体拘束防止の取り組みについても話し合いを行っています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の高齢支援課等にお世話になりながらケアがスムーズになるように日々頑張っている	横浜市の集団指導講習会に出席して、グループホーム運営に関する必要事項を確認しています。区役所とはインフルエンザ予防接種費用の助成や事故報告書の提出、介護保険の更新等で直接窓口に出向くこともあります。また、行政主催の研修会には必ず出席して内容を研修にも反映させています。生活保護受給者の受け入れの関係で、担当者とも連携しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、日頃より玄関の鍵をしない等行っているが、居室に関しては日中はできるだけデイルームにいていただいて、居室の鍵を閉めているなど時間と場所に応じて対応している	今年度の法律改正で身体拘束の適正化が規定されたことに伴い、事業所では、毎週金曜日に厚生労働省作成の「身体拘束0への手引き」を教材にして、事例を交えながら話し合い、身体拘束に関する正しい理解と知識を学んでいます。リスクがあるから拘束をするのではなく、思いを傾聴したうえで、その方に寄り添いながら身体拘束のないケアに努めています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしてはいけないことを常日頃よりスタッフに伝えている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。また権利擁護の制度を受けていられる方もいる			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はかならず読みあわせを行い、理解されるように説明をしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を大切に、できる限り添うように配慮している。	玄関に意見箱を設置していますが、基本的には家族の面会時や家族会で意見や希望を聞いています。毎月各利用者ごとの生活状況を文書にして請求書と同封して近況を知らせている他、毎月「コスモス通信」をお送りし、事業所での行事の様子等を知らせています。緊急の案件については、電話連絡でやり取りをしています。家族からの意見や要望はケアの参考にし、ケアの向上に努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引継ぎのときに出来るだけ聞くように配慮している。	日常的に管理者は職員と共にケアを行い、職員の目線で業務について考えています。日頃から現場に入ることも多く、いつでも職員の意見を聴ける体制を整えています。業務引き継ぎミーティング、毎週金曜日に研修会議を行い、職員からの意見や提案を聞くようにしています。また、随時個別面接を行い、職員の意見や希望も聞くようにしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整備し、やり甲斐のある施設になるように日々勤めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量を把握し、研修に励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と意見を交換し、お互いに利用者の生活の安全や向上について検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始するとき不安があるか、不安があるならどのような不安かなど本人、家族に対して安心できるように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている。家族がお困りになってることを伺い、できるだけの対応をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、その方に合った支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に助け合う関係作りを心がけている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援は一方的に考えず、利用者の立場から、家族の立場から考え、家族の絆が強くなるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみのあるご家族に失礼が無いように、日頃よりいろいろなことを伺い、対処させていただいている	家族の来所の他、近所に住んでいた知り合いが利用者を誘って外出に行っている方もいます。事業所では馴染みの関係を大切に、友人の来訪の際は、歓迎し「また訪れたい」と思っていただけよう努めています。年賀状を出す利用者の支援、友人に電話する利用者は事業所の電話で掛けるように支援しています。以前通っていた美容院に継続して通っている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしが仲良く暮らせるように配慮し、トラブルも起きないように事前に把握し、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した、しないに関わらず、必要に応じて相談を受け、家族が仲良く生活できるように対応している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切にしている。	入居時は、入居申込書及び入居時面接シートにより心身の状況、家族状況、生活の様子、服用している薬、思いや意向などの把握をに努めています。入居後は、事業所における日々の支援の中で時系列で生活状況をケース記録に記入しています。起居動作、食事、排泄、入浴、身体状況などについてフェイスシートを作成しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦などこまかくご家族に伺い、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、生活状態などひとり一人にあった現状の把握は常に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護支援専門員が作成するが、アセスメントを通して、または担当者の意見を聞きながら介護計画を修正し、作成している	入居時入居申込書、入居時面談シートにより初回介護計画を作成します。入居後、1ヶ月程度様子を見て、各人のすべての情報が記入されているケース記録・フェースシート・往診録・看護録を基に見直し介護計画を作成します。そして、見直しケアカンファレンスで、職員全員の意見を反映しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎週金曜日にケアカンファを行い、研修もそのとき行い、見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるためにサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が心身の力を発揮できるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている	かかりつけ医の往診が月2回、看護師は週1回の巡回があり、適切な健康管理が行われています。現在は、全員が事業所の往診医を主治医としています。特別な受診に関しては、家族対応を基本としていますが、家族の対応が出来ない時には職員がお連れする場合があります。歯科医は月1回、歯科衛生士は月2回の口腔ケアに来ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行ってる			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新緑総合病院、新緑ホームクリニックと連携をとり、入院時の対応、退院時の対応をこまかく聞き、早く完治できるように支援している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルに添いながら家族の方に説明を行い。ご理解いただいた上で、ご家族に選択をして頂いて、看取りの体制に入っていく	「重度化した場合い於ける対応に係わる指針」を入所時に、本人と家族に説明しています。また、医師の診断でその時期が近づいた際には医師、看護師、家族、管理者で、方向性を相談しながら万全を図り、チームとして支援に取り組んでいます。看取り介護のマニュアルも整備しており、状況に応じて研修も行っています。事業所での看取り実績もあります。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応について研修し、理解されるように努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携が取れるように協力体制をとっている	年2回、防災訓練を実施し、消防署立ち会いの下、昼間及び夜間を想定した訓練を実施しています。近所の方とは、災害時の協力体制をとっており、火災発見時には窓を開けて外に向かって大声で近隣に救助を求める想定訓練も実施しています。停電時の緊急対応の自家発電機も設置しており、操作の確認も行っています。備蓄は食糧、水等を3日分程度確保しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほこりやプライドを傷つけないような対応をしている。	その人の意思を尊重し、年長者としての尊厳を保ち、その人らしく生活していくことができるよう配慮しています。また、同じことを繰り返したり、威圧的な大きな声を出したりするような対応は絶対行わないよう周知徹底しています。声掛け時は「さん」を付ける、否定しないよう心がけています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはしているが、おしゃれに関しては、その日とその人で違うのでなんともいえない		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に行っているときもある。その日の利用者様の体調によって変わるのでなんともいえない	食材はレシピ付きで業者から発注しています。ケアの時間を増やすために夕食のみ冷凍食にしています。利用者には、おしぼりの準備、もやしのひげ取り等出来ることをお願いしています。節分やクリスマス等の行事の際には手作りの食事を準備し、花見等の外出行事の際は、外食や弁当を持参しています。食事は個々の嚥下状態に合わせた形態で提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自身の力で排泄が出来るように支援している。	トイレでの自立排泄を目標にして排泄パターンを把握し、タイミングを見計らった声掛け、誘導を行うことで、紙オムツの節約を図ると共に、失禁の無い気持ちの良い生活ができるように支援しています。便秘の方には、医師の処方薬、ばななやヨーグルトを提供することもあります。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防は行っているが、どうしても出来ない人もいらっしゃる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望やタイミングで入浴を楽しむことは出来ないが、ご本人の意思で入浴しなかったり、時間を変更したりはできるようにしている	入浴は、週2回を基本としていますが、回数に捉われず、利用者の体調や希望に合わせて柔軟に対応しています。風呂場は、段差のある湯船を配置し、入り易いやすいよう工夫されています。入浴拒否のある方には、時間や介助者を変える等、工夫しながら入浴を促しています。また、菖蒲・ゆず湯など季節湯も行いながら季節感を感じてもらえるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由に取れる。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、利用者の力を活かした役割、嗜好品を把握している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の支援はほぼ出来ているが、難しい人もいる	車イスを使用している方や外出支援が難しい方もいますが、春には近くの大林寺の枝垂れ桜を見に行ったり近場を散歩する等、戸外へ出るように心がけています。遠出では、四季の森公園、里山ガーデン、桜見千本桜などにドライブで行っています。食事の調味料などの買い物には、利用者と共にショッピングセンターに行くこともあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は刺激の無いように配慮はしている。居心地が良いかどうかはわからない	共用空間のインテリアは、清潔で季節感のある大人の雰囲気を出すようにしています。窓からの眺望も良く、四季折々の風景の変化も楽しめるようになっていきます。ソファを配置し、有線放送から流れるBGMが寛げる空間を演出しています。また、ピアノ演奏のボランティアの方が来訪した際や、レクリエーションを行う際はリビングに集まり、時間を共有しながら過ごしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家族と相談しながら行っている	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けてあり、それ以外に必要な家具等を持ち込んでいただくようにしています。整理ダンス、仏壇、お稲荷さん、人形、椅子、家族写真など長年使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、思い思いに寛げる空間になっています。出来る方には、週1回日曜日に職員と一緒に居室の清掃も行っています。寝具類の交換は定期的に行い、清潔に保っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている		

目 標 達 成 計 画

事業所

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。